様式第１号（第１０条関係）

2023 年度業務実績報告書

提出日　　2024 年 1 月 18 日

１．職名・氏名　准教授　新宮　晋

２．学位　　学位　修士　、専門分野　経済学　、授与機関　京都大学　、授与年月 1986 年 3 月

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 マクロ経済学I（2単位）　１年生
②　内容・ねらい ミクロ経済学とともに経済学の基礎理論の一つとして、その後の経済学学修のベースになる理論の概念や論理を理解させ、経済学のコミュニティーに誘うことをねらいとする。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学習時間が成果に結びつくことを学生に実感させる。そのため、経済学的な考え方を一般的なモデルで説明するとともに、テキストを指定しそれに沿うことで学習の便宜を図る。また、練習問題を予習課題として講義の準備を促すとともに、ゴールイメージを明確にするとともに、理解の助けになるよう、事後に練習問題の質問会を行った。さらに遠隔授業希望者には、On Demand で対応した。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 マクロ経済学II（2単位）　１年生
②　内容・ねらい マクロ経済学Iから引き続き経済学の基礎理論を解説。IS/LM分析、AD/AS分析など、マクロ的分析の全体像を明確に提示することをねらいとしている。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 かなり平易なテキストを参考書に指定し、練習問題での演習を使いながら、モデル分析への習熟を促すよう誘導。その際、時事の政策問題に言及しながらモデル分析の意味を理解させる。また、マクロ経済学Iと同様練習問題を予習と位置づけることで講義の準備を促すとともに、ゴールイメージを明確にする。前期同様、今期も質問会を正規授業に組み込み、この科目で何を理解すべきと要求しているのかを明確にした。On Demand で対応した。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 マクロ経済学III（2単位）　２年生以上
②　内容・ねらい マクロ経済学の基礎理論の延長にある様々な個別理論とともに、ケインズ派以外のマクロモデルや動学モデルにも言及。マクロ経済学の応用面への足がかりを提示することをねらいとしている。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 マクロ経済学からの派生的トピックが散在している形で全体の関連性が薄いので、個別項目ごとに学習の進度に合わせた演習問題を提供することで、何に答えられれば理解したことになるのかが自分で把握できるようにしている。公務員志望者向けに、より一般的なテキストによる一般的な内容にも言及。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 基礎ゼミ　（2単位）　2年生
②　内容・ねらい シラバスに基づきつつ、毎回特定の論点を提示し議論させる。受講生を3人程度の複数グループに分けて討論させ、率直な意見を引き出すとともに、そうした意見の論理的な根拠を示すよう求めることで、討論が上滑りにならないよう誘導した。内容は、経済学の周辺領域と重なる部

分に着目することで、社会的な課題についての考え方が多様であると同時に経済学が孤立した領域でないことを実感させることをめざした。論点の多くは、具体的な経済学と政治哲学の接点になるもので、経済学の倫理的諸前提が社会科学の中でどういう立ち位置になるのかを理解させるよう指導した。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
毎回の討論テーマの提示に工夫をした。多くは政治哲学の分野で有名なものであるが、それらの一般性を弱め、より具体的な事例から討論にはいりやすいようにするとともに、いくつかは自前のテーマを提示するなどして、理解の深まりを目指した。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
外書講読I（2単位）　2年生（両学科）

②　内容・ねらい
主に政治哲学の英文を読む。標準的な経済学が前提にしている道徳的基盤に対する疑問が率直に提示されているものである。自分が担当する政治経済学の授業との連携を意識しつつ、経済学を支える道徳哲学についての理解を、英語文献を読むことで深めることを狙う。また、英文についての立ち入った説明はおもに読解技術に限り、理解と翻訳の結びつきが重要であることを気づかせることも重要なねらいである。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
通常外書講読では、英文翻訳と中身についての理解を並行して行うことが多いが、本講義で事前にテキストの内容に関わる論点の理解を、一定の時間をかけて日本語でおこなう。その際、内容に立ち入った議論になれることをめざし、討論の機会も設けている。特にすでに学修した経済理論についての異なる切り口からの説明を丁寧に行い、テキストの内容との連携を図った。これらによって英文の理解はかなり容易になるようで、普段よりも短時間で大量の英文を読ませることができた。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
演習II　（4単位）　4年生

②　内容・ねらい
前期は、専門論文や総合誌記事などを使いつつ、適宜時事問題についての情報収集を織り交ぜる。後期は卒論作成の進捗を経過報告させつつ、それぞれのテーマを共有するとともに、個別指導から見えてくる課題を一般化して提示し、進捗状況に合わせた指導に繋げた。

③　講義義・演習・実験・実習運営上の工夫
前期は読み切り論文を事前提示することで、また後期は卒論自体を素材に多様な論点からなる個別テーマを議論の素材としつつ、経済学やその周辺領域についての4年間の学修を総括するよう誘導した。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
特別企画講座A「ケーススタディデ学ぶ労働組合」（2単位）　2年生以上

②　内容・ねらい
連合による寄付講座。採り上げるテーマは、雇用劣化（失業・非正規雇用の拡大・低賃金・労働条件の悪化）の現状と課題、従業員の権利と義務の実際、そこで果たすべき労働組合の役割などで、制度面・法制面等多面的に展開。多様な講師陣によるオムニバス講義で、キャリア教育とは異なる実社会への誘いをねらいとしている。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
現場の具体的事例から説き起こす「ケーススタディ」として講義内容を構成し直し、抽象論のレベルで重複することがないよう、寄付元と綿密に打ち合わせて構成を考えた。講師陣も地元の現場関係者を多くし、授業時間90分を講義60分と質疑応答の30分に分け、毎回の講義についての疑問と感想を出席者に書かせ、これに次回の授業で応えるという形で遂行。寄付講座とはいえ内容については先方と立ち入った議論を重ね、大学での講義に相応しい内容となるよう工夫した。

(3)その他の教育活動

３．研究業績

(1)研究業績の公表
①　論文
②　著書
③　学会報告等
④その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など 　地域公共政策学会専務理事
学会・分科会の開催運営
(3)研究会活動等
①　その他の研究活動参加
②その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
(5)特許出願

４．地域・社会貢献

(1)学外団体
①　国・地方公共団体等の委員会・審議会 福井地方最低賃金審議会委員（2008年～2015年、2017年～現在に至る） 福井地方最低賃金審議会会長（2017年～現在に至る） 福井特定最低賃金専門部会委員（2008年～2015年、2017年～現在に至る）
②　地方公共団体等の調査受託等
③　　公益性の強い）NPO･NGO法人への参加
④　（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 　未来協働プラットフォームふくい第2回実行部門会議４（県内企業等への就職）メンバー
その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①　公開講座・オープンカレッジの開講 　・「経済学・経営学はおもしろい！」（4人共同開催） 　・武生東高校出張講義
②　その他 「プロジェクトM」世話人会運営（4人共同，2021年～2023年）
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）

５．大学運営への参画

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
キャリアセンター長（2021年4月～）
(2)委員会・チーム活動
FD部会委員（2023年4月～） 学部教育学習支援チーム(2023年4月～) 部局長会議（2021年4月～オブザーバー） 1年生相談担当教員
(3)学内行事への参加
入試説明会（金津高校）
(4)その他、自発的活動など